

ベビー用品の調達可能性に関する基礎的分析

齊藤 千晶¹・清水 直²・藤生 慎³

¹学生会員 金沢大学大学院 自然科学研究科 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)

E-mail: asumo06x@stu.kanazawa-u.ac.jp

²学生会員 金沢大学大学院 自然科学研究科 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)

E-mail: coop@stu.kanazawa-u.ac.jp

³正会員 金沢大学 理工研究域環境デザイン学系 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)

E-mail: fujiu@se.kanazawa-u.ac.jp

近年、デパート、空港、駅等の大規模施設には、おむつ交換台、授乳室、赤ちゃんグッズの自販機等の赤ちゃんや小さな子連れで買い物や旅行をより快適させる施設整備が進んできた。一方、地方都市のように大規模な商業施設がない場合には、前述したおむつ・ミルク・おやつなどの子連れの方々にとって必須のグッズを持ち歩きながら行動する必要がある、大きな負担となり得る。そこで本研究では、北陸新幹線金沢開業により多くの観光客が訪れると考えられる金沢市を対象として、ベビー用品の調達可能性に関する基礎的分析を金沢市を観光で訪れた経験のある方を対象としたアンケート調査を通じて明らかにした。さらに、今後の地方都市の観光地におけるベビー用品の調達における課題を整理し、今後、子連れでの観光をより快適にするための提案を行った。

Key Words : 観光地, ベビー用品, 調達

1. はじめに

近年、デパート、空港、駅等の大規模施設には、おむつの交換台、授乳室、ベビー用品の自販機等の赤ちゃんや小さな子供を連れて買い物や旅行をより快適にさせるための施設整備が進んできた。一方、地方都市のように大規模施設がない場合には、前述したおむつ・ミルク・おやつ等の子供を連れてきた方々にとって必須であるベビー用品を持ち歩きながら行動する必要がある、大きな負担となり得る。そのため子供を連れて旅行を考える際にベビー用品を旅行先で購入できることは、観光地を選ぶ際の1つの指標となると考えられる。

そこで本研究では、北陸新幹線金沢開業により多くの観光客が訪れると考えられる金沢市を対象として、ベビー用品の調達可能性に関する基礎的分析を金沢市を観光で訪れたことのある方を対象としたアンケート調査を通じて明らかにした。さらに、今後の地方都市の観光地におけるベビー用品の調達における課題を整理し、今後、子連れでの観光をより快適にするための提案を行う。

金沢では市民や観光客が、買い物や観光などで気軽にベビーカーを利用できるように公共レンタベビーカー「ベビのり」を期間限定で実施している。これは市内7ヶ所に設置してあるポートならどこでも借りることがで

き、どこでも返すことができる便利なベビーカーのレンタルサービスである。また子育てスポット(赤ちゃんの駅)」という授乳室や多目的トイレがある場所も用意し、子連れでの観光の利便性を高めているが、ベビー用品の調達場所については記載はない。よってベビー用品の調達における課題を明確にすることで、さらに子供を連れての観光が容易になると考えられる。

既存の研究では、南川ら¹が未開発の観光資源および観光客として潜在的なターゲットを同一指標において評価し、観光地のポテンシャルを表現する評価方法を提案している。しかし評価内容はあくまで観光資源・観光対象についてのものであり、実際に訪れる観光客の利便性に関する評価は行われていない。本研究では観光資源の評価ではなく、実際に観光に訪れた観光客(子供連れ)の利便性について考えているため、独自性があると言える。

2. 方法

まず、ベビー用品の調達の実態把握のため web アンケートを行った。対象としては、子供を連れて金沢へ観光に来たことがあると回答した人を抽出し、103名の回答が得られた。このアンケートより、子連れで観光を行

う際の「ベビー用品の調達場所」「不便さ」「要望」等といった観点から現状の把握を行った。

次に、金沢市内の観光地近郊のコンビニに 31 ヶ所において、ベビー用品の有無の現地調査を行った。コンビニは、後に述べるアンケート結果からも、ベビー用品の調達場所として可能性の高い場所であった。現地調査より、これらコンビニにおけるベビー用品の充実状況について現状を把握した。各コンビニにおける調査項目としては、「おむつ」「おしりふき」「常温の飲料」「その他ベビー用品」の有無として調査を行った。また、比較のため「ペット用品（ペットフード、トイレ等）」の有無も調査した。以上の2つの調査より、課題の考察を行った。

3. 結果

1) Webアンケート

まず、「Q1 子どもが何歳になったときに金沢への旅行を考えましたか」という質問では、1歳未満から、3歳前後まで幅広い回答が得られた。様々な年齢の子どもを連れて、金沢へ観光に訪れているということがわかる。

続いて、「Q3 旅行中のベビー用品はどこで調達しますか」という質問では、ほぼ全員が「持参する」と回答している。「現地で調達する」と答えたのは全体の2割弱と低かった。このことから、荷物になるにもかかわらず、ベビー用品は持参している現状が明らかになった。

また、「Q4 旅行先でベビー用品を調達するとしたら、どのような店を利用しますか」という質問では、約9割の人が「ドラッグストア」、次いで約4割が「スーパー」と回答しており、「コンビニ」と回答した人は2割を切っている。

しかし続いて、「Q5 旅行中のベビー用品として、どこにどのようなものを置いて欲しいか」という質問では、Q4 で利用すると回答が多かった「ドラッグストア」で各種ベビー用品の要望が大きい、「コンビニ」への要望も大きいことがわかった。特に、「2個入りなど少量のおむつ」は、コンビニでの需要が高いことが分かる。

次いで「おやつ」「ジュース」といったベビーフードに関しても、半数近くかそれ以上が回答しており、コンビニにおいて需要があるといえる。また、「公共トイレに付随した自販機」や「授乳室」において要望が高かった項目としては、「2個入りなど少量のおむつ」「おしりふき」などトイレで利用するベビー用品の要望が高かった。

さらに、「Q6 ベビー用品にこだわりはありますか」という質問では、6割の人が、「できれば同じものを使

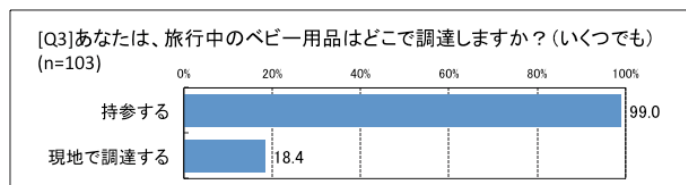


図1 [Q3] 旅行中のベビー用品について

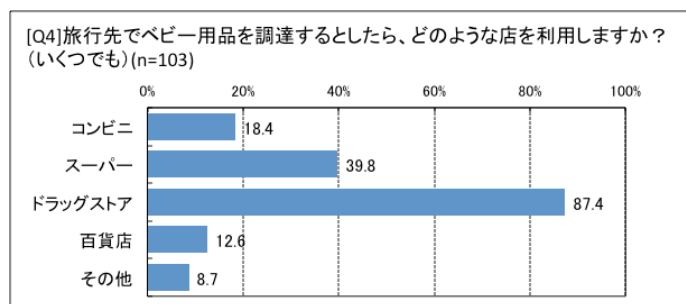


図2 [Q4] ベビー用品の調達場所はどこか

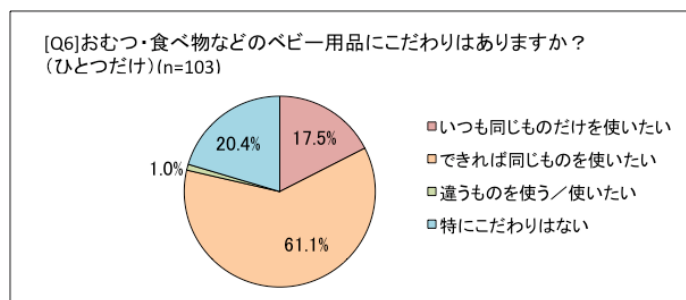


図3 [Q6] ベビー用品に対するこだわり

いたい」と回答している。また、約2割は「いつでも同じものを使

表1 [Q5] ベビー用品をどこに置いてほしいか

Q5		コンビニ	スーパー	ドラッグストア	百貨店	観光施設	公共トイレに付随した自販機	授乳室	その他
1	2個入りなどの少量のおむつ	68.0	41.7	55.3	14.6	36.9	46.6	48.5	1.0
2	通常の大きさのおむつ	20.4	58.3	81.6	16.5	11.7	4.9	9.7	1.0
3	おしりふき	57.3	48.5	79.6	18.4	29.1	46.6	44.7	1.0
4	ビニール袋	52.4	48.5	58.3	12.6	24.3	32.0	41.7	1.0
5	手袋	27.2	24.3	44.7	7.8	8.7	17.5	25.2	2.9
6	ごはん	52.4	63.1	71.8	20.4	27.2	6.8	15.5	0.0
7	おやつ	61.2	65.0	69.9	17.5	28.2	4.9	17.5	0.0
8	ジュース	61.2	68.0	66.0	15.5	30.1	13.6	21.4	0.0
9	ミルク	49.5	55.3	68.0	14.6	24.3	12.6	29.1	3.9
10	その他【 】	2.9	2.9	4.9	0.0	0.0	0.0	3.9	1.0

いたい」と回答している。このような観点から、いつも使っているベビー用品を持参する人もいるといえるのではないか。

また、「Q8 子どもを連れて旅行する際に不便に思うことはあるか」という質問では、「休憩場所・授乳室の少なさ」を約7割が回答しており、観光地において、このような場所の充実・周知は必要であるといえる。次いで6割を越える回答があったのが「ベビーカーの持ち運び」であった。金沢では、2014年に実験的にベビーカーのレンタルサービスを行ったが、利用率はあまりよくなかった。これらサービスにおいても、システム改善や認知が広まれば、利用者は増えるのではないかと考えられる。また、「ベビー用品の購買施設の少なさ/移動手段」も約半数が回答している。Q4.5の回答から得られたように、観光地からもアクセスしやすいコンビニや、トイレや授乳室にベビー用品の供給が確保できれば、改善できる問題ではないかといえる。

最後に、「Q10 赤ちゃんや子どもと旅行する際に感じること」の質問では、

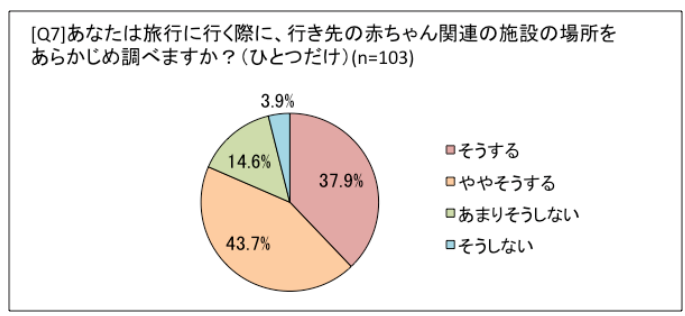


図4 [Q7]旅行時に赤ちゃん関連施設を調べるか

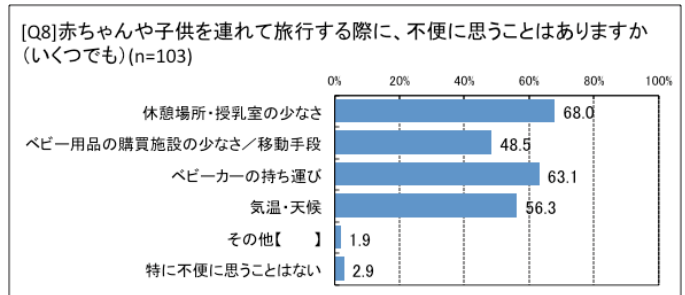


図5 [Q8]子連れでの旅行時に不便に思うこと

2) コンビニにおける現地調査

調査対象としたコンビニ 31ヶ所は、図に示したとおりである。また、調査結果を表2に示す。

まず、「おむつ」の有無に関しては、45%とおむつが置いてあるコンビニには半数以下であった。また、コンビニによってメーカーは違えども、1つのコンビニで取り扱われているのは1種類のみであり、サイズ展開はLサイズ4~5枚入りであった。しかし、WebアンケートのQ1にあるように、訪れる子どもの年齢は様々であり、おむつのサイズは違ってくるため、これでは需要を満たしているとは言えない。また、値段は一袋400円弱であり一枚あたり100円前後と、通常のおむつをパックで買う際は30円前後なので、割高といえる。一袋の枚数を2枚程度と少なくし、より手頃な価格として、多様なサイズ展開があるとよいと考える。

また、「おしりふき」の有無では、19%であり約2割のコンビニでしか扱っていない。その他ベビー用品として、おむつを捨てる際の消臭袋を扱っていたのは、



図6 調査対象のコンビニ

表2 コンビニにおける各種商品の取り扱いの有無

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計(個)			
おむつ	○					○	○	○		○	○			○	○	○	○					○	○	○									14	45%	
おしりふき	○					○	○				○					○							○										6	19%	
ベビー用品(消臭袋)										○												○											2	6%	
ベビーフード																																	0	0%	
常温の飲料	○	○		○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25	81%
ペット用品	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	27	87%	

31 店舗中 2 店舗のみであった。さらに、子ども用のおやつやミルクといったベビーフードを扱っているコンビニは一つもないことが分かった。

「常温の飲料」は、約 8 割のコンビニが扱っていた。その中には、ミルクを作る際に必要な常温の水があり、これは比較的充実しているといえる。常温の飲料には、ほかにはお茶があった。

「ベビー用品」との比較として調べた「ペット用品」の項目では、9 割近いコンビニで取り扱いがあった。えさだけでも猫用犬用など、様々な種類がそろっており、トイレの砂などが置いてある店もある。このように、ベビー用品とは、供給に大きな差があるのが分かった。

4. まとめ

Web アンケートより、現状ではベビー用品は持参する人がほとんどであり、現地調達をしているひとはそのうちの 2 割程度であると分かった。旅行時のベビー用品の調達場所として「コンビニ」と回答した人は少ないが、ベビー用品において欲しい場所としてはコンビニの需要が大きい。コンビニは観光地からアクセスしやすく、ベビー用品の調達拠点としてはポテンシャルの高い場所だと考えられる。

しかし、コンビニの現地調査からは、ベビー用品が充実してるとはいえない調査結果が得られた。「おむつ」が置いてあるコンビニには半数以下であり、どのコンビニも取り扱っているのは 1 種類のみである。また、「ベビーフード」を扱っているコンビニは一つもない。

しかし、これらベビー用品は子どもの年齢によって種類が異なることや、またいつもと同じものを使いたいと

いう意見も多いことから、消費者のニーズは多様であることも分かる。このような多様なニーズに、コンビニがいかに対応するかといった課題の解決が、ベビー用品の現地調達の可能性を高めると考える。

また、トイレや授乳室にベビー用品を求める声も多く、このような場所にも供給が確保できれば、ベビー用品を現地調達する上での充実につながると考えられる。

最後に本研究の今後の展望として、コンビニだけでなく、周辺のドラッグストアなどでの調査や、他の観光地での調査との比較等が挙げられる。

また、旅行時の不便な点として、「ベビー用品の購買施設の少なさ」に加え、「休憩場所・授乳室の少なさ」や「ベビーカーの持ち運び」を回答する人も多かった。このような場所やサービスの充実・周知も、子連れでの観光の満足度を高めるのには必要であるといえる。これらについても、現状を把握し、研究を進めていくべきだと考えられる。

参考文献

- 1) 南川愛貴, 熊澤栄二, 若林薫: 津幡町における観光資源の評価と活用に関する研究, 日本建築学会北陸支部研究報告集第 54 号, 2011.7
- 2) 金沢市ホームページ
<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/index.html>
(2015 年 4 月 21 日アクセス)
- 3)

ANALYSIS OF ACCOMMODATION CAPACITY IN KANAZAWA ~TOWARDS NEW HIGH SPEED RAIL OPENING~

Natsumi IWAMOTO, Satomi SUGISAWA, Kanako MAKI and Makoto FUJII